

令和元年度 学校関係者評価委員 意見・提言

お名前 【1. 「真・善・美」の全人教育の実施】について

A委員 特記事項なし

B委員 理念に基づき教育方針がしっかりたてられており、取り組まれたことが確認できました。

C委員

D委員 「真については、科学的なものの見方が身につく」、「善については道徳的に正しいことがわかる教養を身につける」といった取り組みも検討いただきたい。

お名前 【2. 教育目標の達成】について

A委員 特記事項なし

B委員 教育目標達成のための取り組み、支援は適切に実施されたと思われます。

C委員

D委員

お名前 【3. 国家試験合格率100%を目指す】について

A委員 学生の最終目標も国家試験の合格になるものと思います。カリキュラムは多忙である中、院外実習などもあり、実際に国家試験に向き合うのは3年生の実習終了後からというイメージがあった。模擬試験が早期より実施しているのであれば、早くから国家試験について意識できるので学生の気持ちの準備にもつながるのではないかと

B委員 合格率100%を達成できなかったことは、残念ですが、課題として傾向と対策も講じているので、次年度に期待します。

C委員

D委員 国家試験合格率の前年実績をみると言語聴覚学科が低迷している。言語聴覚学科の合格率改善策を学科を超えて知恵を出し合い、次年度の結果につなげていただ

お名前 【4. 就職率100%】について

A委員 理学療法士の職域についても少しずつ広がってきているので、カリキュラムに地域や予防について取り組まれていることで生徒の視野が広がると思う。それが就職率にもつながってくるのではないかと。今後は産業分野の他いろいろな可能性についても知る機会の提供をお願いしたい。

B委員 専門職として学院卒業生は、レベルも高いとの評判もあり、社会的にも活躍されています。今後も就職率100%は維持してほしいと思います。

C委員

D委員

お名前 【5. 学院運営の安定】について

A委員 受験生や生徒の確保には職業イメージを持ってもらうことが必要になってくる。メディアで取り上げられたり漫画やアニメなどで取り上げられている内容なども活用した広報活動などを行っていくことで理学療法全体の職業の理解も深まるのではないかとと思う。

B委員 定員割れの学科があったことから、受験生確保の課題もでているので評価は適切と判断します。

C委員

D委員

お名前 【6. 学生支援の充実】について

A委員 卒業生が学院をもっとうまく活用すること、活用できるような取り組みを学院も提案いただけると在校生と交流することができるようになることで、実習での指導者と学生ではない関係ができることで実習での不安や職業に対する不安などについて軽減することができるのではないかと。

B委員 学生支援の充実によって退学者が減少しているのは、良いと思います。

C委員

D委員

お名前 基準1 教育理念・目的・人材育成像 (P4～P7)

A委員 特記事項なし

B委員 適切に評価されていると思います。

C委員 情報の共有、周知に向けて進めてほしい。

1-1-1) 理念は学生・教員に浸透してこそ意味がある。浸透させるための具体策を検討していただきたい。

D委員 1-1-2) 療法士養成においては各専門職団体からだけでなく、診療補助行為の指示をだす医師の意見も求めたらどうか。例えば沖縄県リハビリテーション医学会・協会など。

お名前 基準2 学院運営 (P8～P15)

A委員 情報共有システム化については積極的に取り組んでいただきたい。しかし同時に情報管理の部分についてはシステムだけでなく個々の教育についても導入をして生徒の皆さんに意識していただきたい。昨今のSNSなどによる情報の拡散などは大きく関係してくる。

B委員 教職員の働きやすい職場環境のためにも、人事給与制度の課題整備は、早めに対応されると良いと思います。

C委員 タイムリーに処理できない原因分析は必要

D委員 計画達成に通じるものと思われる

お名前 基準3 教育活動 (P16～P24)

A委員 教員の確保の部分については自己評価が低いので学校運営とも照らして取り組みを実施していただきたい。

B委員 教員、教員組織の自己評価が2と低い。採用計画も苦慮していることから、教員の人員確保も厳しい状況だと思われます。学生支援、国家試験合格率にもつながるので、課題の対応おねがいします。

C委員

D委員 3-9-2) 教育課程について卒業生・就職先等の意見が聴取できる仕組みを検討していただきたい。

3-9-3) 教員が就職先との連携を深め、卒後教育の実際を学び、そのうえでキャリア教育の方法を検討していただきたい。

3-12-2) 教員の研究活動・キャリア開発のためにも、定期的(例えば週に半日程度)に実習先病院・施設で研修するシステムの構築を検討していただきたい。付言すれば、法人内病院・施設だけでなく積極的に法人外の病院・施設を活用していただきたい。そのことで卒前卒後教育連携にも有意義な成果が期待できると思われる。

お名前 基準4 学修成果 (P25～P28)

A委員 就職については県内の採用状況について少しずつ厳しくなっているものと思う。しかし今後地域医療構想など回復期への転換が求められてきていることで、数年は現状維持となる。しかし今後後養成校が増えたことになりさらに多くの人材が輩出されると就職率100%の達成は厳しくなるものと思う。早期からの取り組みが今後大切になってくるものと思う。

B委員 ST学科の合格率が低いのが気になりますが、就職率100%で卒業生の社会的評価も高いことなどから、学修成果は評価できると思います。

C委員

D委員 4-15-1) 院長・施設長などにも簡単でよいので意見を聞けるとよいと思われる。

5-21-1) 卒業生の再就職やキャリアアップの相談にのる旨の案内を、学生全体へ周知する仕組みを検討していただきたい。

お名前 基準5 学生支援 (P29～P37)

A委員 こころと体のヘルスケアセンターを活用した実績と分析なども今後活用(可能な範囲での情報提供)いただけると臨床実習を進めていくときに個々の個性に合った対応ができるものと思う。

B委員 休日の学生ホールの開放はありがたいです。欲を言えば、開放時間が17時半までとのことなので、その後はファストフード店などへ移動して学習している学生も多いと聞いています。試験前などは、平日と同様22時までの延長をお願いしたい。

C委員 学費の入学手続き時の納入は多額なので負担が大きい。課題の改善方策の入学金と分けて納入する方法は賛成です。是非検討されてほしいと思います。

D委員 勉学はもちろん、就職支援等も将来的に大事なことなので、是非説明会等開催してほしい

お名前 基準6 教育環境 (P38~P42)

A委員 昨今の社会情勢をうけ、各病院では感染対策や感染症への対応が厳しくなっている。看護師と比較して患者様との接触が多い職種なので対策のための知識の習得についてもご検討いただきたい。

B委員 施設の環境整備は充実していて、適切に評価されていると思います。

C委員

D委員 6-22-1) 卒業生が、学院の保有する機器などを臨床研究などで使用できる仕組みを検討していただきたい。

6-24-1) 防災に関する知識は、いまは医療福祉専門職にとって必須のものとなっている。卒前に一度は機会がもてるよう検討していただきたい。

お名前 基準7 学生募集と受入れ (P43~P47)

A委員 最近、現場を見たことのない学生もいることから現場の見学についても積極的促していることについても具体的な取り組みに入れてもいいのでは？

B委員 沖縄リハビリテーション福祉学院は、医療福祉の専門学校として広く認知されていますが、県内でも同種の専門学校が増えてきていて、そのテレビCMをよく目にします。学生募集の観点からも、インパクトのある広報活動をさらに強化した方が良いと思います。

C委員

D委員

お名前 基準8 財務 (P48~P53)

A委員 特記事項なし

B委員 適切に評価されていると思います。

C委員

D委員

お名前 基準9 法令等の遵守 (P54~P58)

A委員 情報システム化にも関係するが個人情報に関する意識については学内と学外では大きく状況が異なるので、学生には事前に十分理解して委託ことが望まれる。

B委員

C委員

D委員

お名前 基準10 社会貢献・地域貢献 (P59~P61)

A委員 介護保険における総合事業など教育関係における療育など産業分野における感染対策腰痛対策など職域として広がりを認められ地域社会的にも必要性が高まってきたが現実的には人材が不足している。そのような分野からの依頼については教員の皆さんも積極的に対応していただくことで理学療法の認知度や職域の拡大による就職率の向上、また新たな学生さん獲得などにもつながっていく可能性もあるので大変忙しい中ではあると思いますがご助言ご協力をお願いします。

B委員 課題が見えて、改善方策の検討も考えられているのでよいと思います。

C委員

D委員 10-36-1) 実習施設と共同で研究をおこなうことは産学連携の意味からも意義深い。ぜひ検討していただきたい。またリカレント教育は今後の社会で大きな役割をもつ。地域住民を対象とした生涯学習講座をぜひ検討していただきたい。